

## 農業したい人集まれ！ 農の仕事「おためし体験」参加者募集

「農業に興味があるけど、実際の仕事がイメージできない…」そんな方にぴったりの就業体験です。

畑作から酪農・畜産まで、道内各地の農家で2泊3日程度、リアルな農業を体験します。収穫作業や経営者・先輩との交流を通して、ネットでは分からない仕事のやりがいや楽しさ、時には厳しさも肌で感じることができます。体験を通して自分に合う仕事か確かめられるので、就業後のミスマッチを防ぐことにも繋がります。参加費は無料で、どなたでも参加可能。北海道の雄大な自然の中で、農業への第一歩を踏み出してみませんか？



お問い合わせ 農政部技術普及課  
TEL.011-204-5385

詳しくは、**HOKKAIDO農の仕事おためし体験** 検索

詳しくはこちら



## 宴会も おいしく残さず食べきろう！ ～年末年始食べきりキャンペーン～

忘新年会シーズンに向けて、食品ロス削減のお願いです。

食品ロスとは、本来食べることができるにもかかわらず捨てられてしまう食品のこと。発生要因の一つに「食べ残し」があります。国の調査によれば、食品の食べ残し量の割合は、食堂・レストランの3.6%に対し、宴会は14.2%と高く、宴会が増える年末年始は、「食べ残し」が発生しやすい時期です。宴会時の「食べ残し」を減らすため、次の「宴会5箇条」の実践について、みなさんのご協力をお願いします！

### <宴会5箇条>

- 1 まずは、適量注文
- 2 幹事さんから「おいしく食べきろう！」の声かけ
- 3 席を立たずにしっかり食べる「食べきりタイム！」をつくろう
- 4 食べきれない料理は仲間で分け合おう
- 5 目指すは完食！！でも食べ過ぎは注意  
ゴミと身体のダイエットを心がけよう！

詳しくはこちら



お問い合わせ 農政部食品政策課 TEL.011-204-5427

詳しくは、**北海道 食べきり** 検索



## 編集後記

今回の特集では、地域に飛び込み、農業にチャレンジする地域おこし協力隊員の活躍をご紹介しました。記録的な高温などによる生産性や品質の低下、国際情勢や円安などを背景とした肥料や飼料、エネルギーなどの価格の高止まり、農業従事者の減少や高齢化など、北海道の農業は厳しい状況が続いています。日本の食料安全保障に関わる情勢が大きく変化する今、豊かな食卓を守るため、私たち一人一人ができることを一緒に考えてみませんか？

## 『北海道の農泊』で体験する、自然・文化・癒しの旅

自然や文化にふれて、心も体もリフレッシュしたい！そんなみなさんにぴったりなのが「農泊」です。「農泊」とは、農山漁村に滞在して、地域ならではの体験やグルメを楽しむ「田舎旅」のこと。

昔ながらの民宿やリノベーションされた古民家での、日常とはひと味違う『ちょっと特別な宿泊体験』、カヌーをゆったり漕ぐ、伝統工芸に挑戦する、収穫体験で汗を流す…そんな『癒やしの体験』も農泊ならではの楽しみです。もちろん、その土地でしか味わえない『ご当地グルメやローカルフード』も満喫できます。

『北海道の農泊』で、みなさんだけの特別な旅に出かけてみませんか？新しい出会いと発見が、きっと待っています！



詳しくはこちら



お問い合わせ 農政部農村設計課 TEL.011-206-6490

詳しくは、**北海道の農泊** 検索

## 農業系公務員のお仕事をしませんか！

北海道の農業・農村を支える農業系公務員をご紹介します。北海道では「農業」、「農業農村整備」、「普及（農業）」、「獣医師」の4つの職種に分かれています。

「農業」は農畜産物の生産拡大に向けた施策推進やイベント企画、「農業農村整備」は生産性の向上に向けた農地や農業用施設の整備、「普及（農業）」は現場の農業者の相談役や技術の普及、「獣医師」は安全・安心な畜産物生産に向け家畜の伝染病対策や衛生指導をしています。興味がある方は就職先の一つとして検討してみてください。

詳細は北海道農政部のホームページをぜひご覧ください！

お問い合わせ 農政部農政課  
TEL.011-204-5373

詳しくは、**道農業系技術職のお仕事紹介** 検索

詳しくはこちら



# つながる農業のバトン

～人も、地域も、農業も。世代を超えて、続く、つなげる～

新しい農業の始め方として注目される「第三者継承」。

先代から農業のバトンを託された、  
新篠津つちから農場代表・中村好伸さんの事例をご紹介します。

札幌市の中心部から北東に車で50分程度、のどかな田園風景が広がる新篠津村。この地でたまねぎを育てている「新篠津つちから農場」の中村さんは、会社員から一転就農を目指し、2002年、後継者不在の農業法人「佐藤農産」に就職しました。たまねぎの特別栽培をしていた佐藤農産で様々な経験を積み、2008年に先代から経営を継承し代表に就任、2013年には社名を新篠津つちから農場に変更しました。

農業経験ゼロから新たな世界に飛び込んだ中村さんは、「第三者継承」の仕組みも活用し、道を切り拓いてきたと当時を振り返ります。

「大変なことがあっても、好きなことなら、なんとかなる。めげない気持ちが必要ですね」。

農場では、前身の佐藤農産から受け継いだものをベースに、健康な土づくりを基本に、自然の力を生かした「あたりまえのたまねぎ」を生産しています。また、「keoA」ブランドを立ち上げ、安全な農作物を、農業が持続できる適正価格で消費者に安定的に届ける取組にも注力しています。

次のページで新篠津つちから農場が作る特別栽培たまねぎ「ねを」を使った産地発・簡単レシピをご紹介します！  
「Infra」読者プレゼントもありです！



「新篠津つちから農場」について、詳しくはこちらから



有機栽培4ha＋特別栽培16haの広大な農地で、「ありのまま」をモットーに、自然のリズムでたまねぎを育てています。



人気ブランド「ねを」の栽培を始め、「特別ではなく、あたりまえを次世代に広げたい」と中村さんは話します。

「経験は次の世代につなげていくことも、大事な役割」と、2024年に社長職を若手に継承した中村さん。農業のバトンは確実に次の世代に繋がっています。



後継者不足が深刻化する中、農業経営の第三者継承の動きが広がりを見せています。家族以外の方が農業経営を引き継ぐこの仕組みは、農地などの有形資産だけでなく、長年培ってきた技術やノウハウ、販路や人脈など様々な無形資産も一体的に引き継ぐため、新規就農者が農業経営を始めやすいといったメリットがあります。また、スムーズな継承には、現経営者と後継者との間の信頼関係づくりなどが大切です。

「第三者継承」について  
詳しくはこちらから▶

